

特別講演 2

「高齢者心不全を地域で支える」

のぞみハートクリニック院長

岡田 健一郎 先生

高齢者心不全への対応は、循環器内科医にとってのみならず、社会全体にとって喫緊の課題である。

高齢心不全患者の治療に関するステートメントでは、「患者が抱える依存症や生活環境の問題も、実地医家の総合的診療と支援が中心にあるべきである。それを基幹病院は的確な診断と非代償期の入院治療あるいはリハビリテーション等において連携・支援する。」と記載されている。すなわち、高齢心不全患者の管理においては、実地医家等が地域で形成する診療体制が主体的な役割を果たしていくべきだと考えられている。しかしながら、終末期の高齢心不全患者の現状としては、自宅ではなく病院で最期を迎える場合がほとんどである。自宅で最期を迎えるようにしていくには、様々な方面からの支援が必要であるが、ADL 低下等により通院が困難になった場合は、病院から地域へつなぐことが重要である。

当医療法人は、心不全の在宅医療を中心としたクリニックを昨年5月に大阪に開設した。現在外来診療と約120人の在宅訪問診療を行っており、当院での取り組みについて紹介する。